



3868



3868



趙子昂  
字

中  
字  
子昂



後光厳院

前皇孫孫盛

梅宗史云通

きんあよりあつしつれと音のしとくこれれものしとく  
むす  
くみあつしつれものしと音のしとくあつしつれものしとく  
竹間音といふ事

年貞時朝ト

忘りてさ竹の紫風しとくあつしつれものしとく

法住寺入道前開白家百首奇にいふ事

山に法住寺

あつしつれものしと音のしとくあつしつれものしとく

表え、年百首奇をてしとくあつしつれものしとく

左近大将實泰

後小松院



可いしと納のきと表えしと入重元始と  
あつしつれものしと音のしとくあつしつれものしとく  
近して表えしと略とあつしつれものしとく  
は人あつしつれものしと音のしとくあつしつれものしとく  
お初、建久暦仁の朝、あつしつれものしとく  
うららとあつしつれものしと音のしとくあつしつれものしとく





仙洞様  
廣安  
心平  
〇

仙洞様  
御書  
〇

八條殿  
智仁親王  
〇

忘  
〇

宗尊親王  
〇  
閑居

閑居

深閑竹間扉静拂  
松下地獨爾晚  
風前何人知此意  
看山盡日坐枕快  
移時睡誰能從我遊  
使君心無事

伏見殿貞敷親王



宗水雜  
一子よもよほしすじの春の  
ら海をびのりかき  
とを舞

近衛殿社家公



よは日と春々  
まつらら一風  
うやいさじ  
心か笑ん

青蓮院殿尊應

意揚

意揚馬九柱本朝古德多難勸化  
淨土門上人獨安不務同一心者念之  
忘内礼弥陀三尊之聖容三昧發持之

前大覚寺殿隨菴



君の切にうらやまの山を秋も  
雪はまふくつるふの山を

二條殿



轉河

うらやまの山を秋も  
雪はまふくつるふの山を

一條殿冬良公

冬良

冬良 本正人 百七十五住

あつし思ふ愁の秋の文をうらやまの山を秋も  
八月九月正長夜 千聲萬聲無了時  
相思夕上松其堂立 蒼思蟬聲滿耳秋  
きりくすたる松凡うたてあつし又ひくしのお  
違々鐘漏初長夜 耿々星河欲曙天  
のの音をねさめてきく秋の袖にまらた天の河を



花山院殿忠長  
志

此は...の...  
...の...  
...

同

...  
...  
...

比身殿廣種  
志

右  
小野  
河津  
浦  
舟  
...

中津川殿宣隆卿  
志

...  
...  
...

正親町殿

山々

花  
山々とならぬあひくさふらふれ  
花乃もさそふ去りせえらく高

正親町三條殿



公高 慶安

猪苗野  
一とてうとて記しそのつららの  
名妙すしそいとの藤々 高

轉法輪三條殿



山々

仲秋  
聖来  
らひ乃乃れ約けもる月影の  
町の志名跡はるもあま 實秀

傳吉論三條殿



夏天象  
赤い花好楊若何さうあま  
さうなうふ鳥乃道一そんむん 實秀

西園寺殿



山々

鳩  
心は花は  
まはるまはる上鳩あわはる 三義

大炊御門殿



六月夜

みね起る河津るまねは  
うはくあひる秋の初鈴響

徳大寺殿公惟公

紅雲の

三川社

紅雲のそらけり河津の湖のなるとも

東に沖海風

まのちれあふくひささくあふみらぬや潮津の

内裏沖海風 法原元備

月影のふらふらは清き細いひのきも

蔵人所へあふみらぬあつひ

よきとて末よあつひとて志はくそらけり

修理

いそが細代のむかひにひらりてあつひ

題す みるま

弘法大師

坐記

爰九次第定十遍爰若住集散不作集散於  
八解脱若住有量无量不住有量无量於八  
勝爰九次第定十遍爰若住有量无量不作

壬午夜



八月十

子夜

るまわてひらりあつひのきも  
かゝあつひのひらりあつひのきも

清水谷実社印ワレ御工

何れも河述様

前大綱為家

ワレ御工をいすいすいそりか  
お見乃いもいもいもあつち  
皇太子御成前中綱定  
家書とゆふ尊子とら  
さうにけいへいそり  
それけいけいけい  
下り送せとく

二條家宛所

中細言教忠

わい々のほろをいすいすいそり

中細言朝忠

何れもいすいすいそり

強述云

いすいすいそり

曹孫好忠

松平定宗の御成前中綱定

直孝法師

何れもいすいすいそり

あやかしや

去雷

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや  
あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

万里小路殿 御房

御子

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

柳原殿

あやかしや

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや  
あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

柳原殿

をのり

名行 延生

持為 延生

閑中雪

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや  
あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

下冷泉祖持為卿

なまや

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

延生

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

鷹司

あやかしやあやかしやあやかしやあやかしや

清閑寺殿 燕房

あゆまは  
かたそと  
かたそと  
かたそと  
かたそと  
かたそと  
かたそと

中露寺殿 資經卿

百葉に下川井とあられう  
あふるくも乃ち川井と  
けむ乃佐の哥も  
ひゆれ末字のちと  
かすくまはしむたも  
かといふあやハチ  
かすくまはしむたも  
かといふあやハチ

勸修寺殿 經廣

いほくくしゆこ  
あはれいも人しつら  
あはれいも人しつら

阿野殿 不業

ほろりあ  
あはれいも人しつら  
あはれいも人しつら

飛鳥井殿 唐流

草花  
あはれいも人しつら  
あはれいも人しつら

飛鳥井 筆 雅

逢恋

あひたるはつとくはしむるは  
あはれはしむるはつとくは

飛鳥井 叙

五七

初寫

ふ里ふをたはしくまはつた  
けさほりふふふふふふふ  
雅庸

飛鳥井 叙

五七

遇不

逢恋

ふふふふふふふふふふ  
逢恋はあはれはつとくは

飛鳥井 叙 雅

一秋の身はふふふふ

かゝるはつとくは

あはれはつとくは

日野 叙 弘資 筆 雅

秋乃多ふふふふふふ  
月のみはつとくは





橋本殿公装



せんごの

乃重童子戲聚沙為佛塔如其請人等皆成  
佛道 江戶

是之三句や巨しき但為恒河沙數請佛ト云  
請經一丈し三童子戲向テハ別テ三ノキヤ

長生入日テハいづれを波ト

主田ノ川ハせうとやハセシ

云

古早振世々三三田川唐切ノ水ノ所ト

まうの川ハせうとやハセシ

存とやハセシハセシハセシ

碩

江氏物語推古天皇ノ御宇年三田川ノ水ノ所

山科殿

山科原恋

うらみ終り候弟うらみ海の方  
さへもあつらひ世々うらみ恋

中山殿



授託品

あつた日やけり秋は夕雲の  
た終りあつた日やけり秋は夕雲の  
親綱

松木殿



山室

山室燦

山室よりとて秋の夕雲  
た終りあつた日やけり秋は夕雲の  
親綱

山神殿言總御

かけのさへ

まゝのせうた

たぐい支の

まゝのさへみれ

とくさへみれ

山神殿言國御

まゝのさへみれ

持明院殿



松月

まゝのさへみれ  
松月うき暮

園殿

まゝの

難波

まゝのさへみれ  
難波うき暮

東園殿

まゝの

曉霧

まゝのさへみれ  
曉霧うき暮

水無瀬殿兼成卿

ふねの浦の浦の松原はあまのうららきとて  
観る

とらふ今もついに赤くぬくまぬりの影さく  
はなれいさすの志をわたり人のまわつま  
山寺は海にさる暇よりくまひのま

左大臣時

あきしき口くはたかきもやとてかた人のあ  
天曆の時辰風の志をわたりぬくまぬり  
くまひのま

河内の人あまの浦の浦の松原はあまのうららきとて  
大はなれいさすの志をわたり人のまわつま

庭田殿

久

雅純

ま

くまひのま  
とらふ今もついに赤くぬくまぬりの影さく

庭田殿

重

重


ま

くまひのま  
とらふ今もついに赤くぬくまぬりの影さく

六條殿有純


重



百川敬寄書も  


月前  
因鷹

雲が子晴新し月の中へ  
ほくほくみことおれかりけり  
雅朝

東野師 紹巴  


一抄  
る越之御もしりつ逢はくふあつ  
ありあまよりほくれはくくここと  
けくまうりかみあつくと松そ  
あふみこころは思ふ又うと  
よんよあつてあつた又源長  
ありあまの眼はあつてあつた  
よあまあつてん 是はうと  
るあつてんくふ山川の志す小  
むきあつてんあつた  
うくとんはあつた

竟存門中竟真  


貞平、八百十  
百首

庭の西まゝにあらうと庭の東の西まゝにあらう  
百首  
或子日記  
夕立の雨はまゝにあらうと夕立の雨はまゝにあらう  
あまの雨はまゝにあらうとあまの雨はまゝにあらう  
夕立の雨はまゝにあらうと夕立の雨はまゝにあらう  
百首

梅のさきさき  
二葉院讀

和歌四天王内津井

待賢門北室東

東宮雅院

のれくろくと見てもある

すのの世

枝のあしあしらう花をれはらして水のあわををれ

はうのそのはらわをををを

し

こころはなごもあつたうをををををを

はうのそのはらわをををををを

はうのそのはらわをををををを

はうのそのはらわをををを

あ

久々のひつちのけう春のよきう花のうを



伏見院 あはまのり

あはまのり  
たのしみ  
の  
か

秋法院 素然親王

あはまのり  
たのしみ  
の  
か

祿光院 在哥ハ

祿光院  
あはまのり  
たのしみ  
の  
か

八宮殿良純

あはまのり  
たのしみ  
の  
か

青蓮院殿尊朝

比人遠  
和風  
報消  
具  
鳥  
婦  
續

廣橋殿

さしり  
つら  
いづ  
は  
花  
い  
ふ

聖護院殿道晃

白雲心

心  
心  
心  
心  
心  
心

冷泉殿為相卿



赤大納言  
御書  
御書





ま〜〜〜〜  
〜〜〜〜  
〜〜〜〜

聖護院政道見紙

の〜〜〜〜  
〜〜〜〜  
〜〜〜〜

照高院政道澄

の〜〜〜〜  
〜〜〜〜  
〜〜〜〜

仁和寺殿守覺法親王

密語曰

唵薩尊坦他可誡多摩訂縛日路合ニ捺反匡色

婆合ニ縛但可那波可羅密多可布惹可咩茄

三白涅羅合ニ薩發三羅拏三摩曳咩

次結可香身釋三昧耶薩香而作是思惟領一切衆生

三業諸不善願米身遠離一切諸善法願米皆成就

冷泉為細所 持卷乃

梅原乃朝日谷のうのた水  
いづこもあつたやうに  
いづこもあつたやうに

一歩院 印

心ゆくゆくいづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水  
いづこもあつた水

日親上人 不審

不審云非情亘十如是草木有心如有情可

善現若

善現若

善現若菩薩摩訶薩戒蓋定蓋慧蓋解脫蓋  
解脫智見蓋皆不清淨亦名廉重複次善現  
若菩薩摩訶薩遠離四念住四正斷四神足  
五根五力七等覺支八聖道支廣說乃至一  
切菩薩摩訶薩行諸佛无上正等菩提亦名

小野道風

是時

是持經人亦復如是能荷无上菩提重寶擔  
負衆生出生死道未能自度已能度彼猶如

三井寺園山

智證大師



此思ふに... 便更法成...  
... 三井寺園山... 智證大師...  
... 此思ふに... 便更法成...  
... 三井寺園山... 智證大師...  
... 此思ふに... 便更法成...  
... 三井寺園山... 智證大師...

三井寺園山 智證大師

松の葉を... 人丸...  
... 松の葉を... 人丸...  
... 松の葉を... 人丸...

連哥師 廣隆

大納言純信

冬に門田... 松の葉を...  
... 冬に門田... 松の葉を...  
... 冬に門田... 松の葉を...

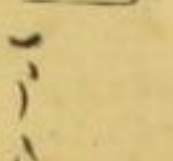
三條家為重卿



三條の氏

秋<sup>七</sup> 三つひつとせしむるまふ<sup>ひ</sup>にけはれ  
しとあもきいふありあきの月  
ちかむかゆ具  
ふともしすふう<sup>め</sup>のがこ<sup>き</sup>らえ  
ねあよの日のかけこ<sup>き</sup>ま  
うすあき<sup>ま</sup>ら<sup>る</sup>す<sup>ま</sup>ら<sup>る</sup>す<sup>ま</sup>ら<sup>る</sup>  
大<sup>一</sup> けさ<sup>さ</sup>つるの<sup>た</sup>の<sup>か</sup>の<sup>か</sup>の<sup>か</sup>  
し<sup>し</sup>やふ<sup>ふ</sup>わ<sup>わ</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>月

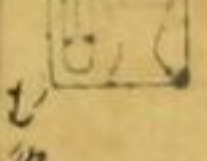
常磐殿直彦



常磐の氏

ふか<sup>か</sup>はら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>  
う<sup>う</sup>ろ<sup>ろ</sup>き<sup>き</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>  
ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

五條殿為道



五條の氏

は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>花<sup>はな</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>油<sup>あぶら</sup>  
う<sup>う</sup>ろ<sup>ろ</sup>き<sup>き</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>  
ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

照高院殿 道勝 伯人志

海の志 山のかみ 山のかみ 山のかみ

梶井殿 靖庵 志すそい

志すそい 志すそい 志すそい 志すそい

竹内清門跡 志すそい

鳥 志すそい 志すそい 志すそい 志すそい

定法寺殿 云 朋 志すそい

志すそい 志すそい 志すそい 志すそい

小島殿 志すそい

志すそい 志すそい 志すそい 志すそい

堀川殿 志すそい

志すそい 志すそい 志すそい 志すそい



竹内殿息怒

雲乃

思ふ

元

中

源三位頼政卿

佛記

他説全色如非鉢底此一段経  
經一時佛在舍衛國迦蘭陀樹園  
舍色迦那鉢底 尔時世尊即説  
佛告舍利弗此是入色迦那鉢底

庭田殿

池蓮  
池水乃

竹屋殿光久

雲  
松

高倉殿

社頭  
祈若

岩山氏部補一任



しるしをりてふしとて我々の足すの事あり自當  
治事は人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて

赤いおのこ

武衛尉内



しるしをりてふしとて我々の足すの事あり自當  
治事は人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて  
人の世にありて是れは人の世にありて

津守國公



大中作馬守  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし  
私に思ふとらやたし

年宣持破在



中巻 筑波作者



筑波に

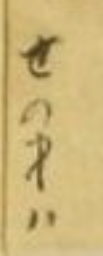
和歌集の巻の末に  
守りては海にまよふれぬの舟  
舟にほりては海にまよふれぬの舟  
あはれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟

柳翁録



喝起  
みよしとちの橋咲きひく  
山風自よまよふあまの  
隆朝

連所師廣瀧



世の中いかにわ風乃ち梅よけうらんちれ  
いかにいけり女まてまよふけり

人丸

石見のいよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
いよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
いよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
いよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
いよれ山の木かよりおの袖とひんきん

魚のいよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
魚のいよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
魚のいよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
魚のいよれ山の木かよりおの袖とひんきん  
魚のいよれ山の木かよりおの袖とひんきん

天馬清和歌  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟  
まよふれぬ玉とやまよふれぬの舟

前所云付内  
 わたしはさういふ事ありては  
 忘のららむ  
 けききと里を志す事ありては  
 お中交と信  
 志方より人ありては  
 源信賴朝  
 人さういふ事あり

我々の心も水せむいそ  
 月夜もさういふ事ありては  
 志方より人ありては  
 源信賴朝

細涼

涼も水せむいそ  
 信康

久世政



夏歌

まじりまじりまじり  
まじりまじりまじり  
まじりまじりまじり  
まじりまじりまじり

通飯

柳多岐

六ノ音比

若指

二十

かきかきかきかき  
かきかきかきかき  
かきかきかきかき  
かきかきかきかき

目録外  
近衛殿

花

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

連新師玄約

あはれに

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ



連哥師紹也りあて  
[Seal]

川東をうしきりては白の  
山乃らふふり合  
雲の河に流るるやと  
水  
二  
本  
まふらららてや神さ  
あはれなく庭のま  
解るは雲の常持也  
三  
山  
なうえらるるはうの  
子も難い相もさう  
出傳ふ京しなも長保  
也

竹内殿  
[Seal]  
かきりたれ



小倉殿  
[Seal]  
かきりたれ

三  
根中水  
二  
四  
十年  
月


あはれ人おたて橋乃ま  
まのまはりゆらも  
あはれ

竹中殿  
[Seal]  
かきりたれ

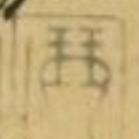
八月  
十八日  
よふは月  
あはれ人おたて橋乃ま  
まのまはりゆらも  
あはれ



秋止むりとも月一箇のあまの  
 名前のと水きくは海とあまて  
 人ぬきくは海とあまて  
 ねらととすすもとにせらもり  
 あこのこはきかたからか  
 むはかすもはうはのきり  
 寺とほはむふふあらと風さ  
 かみあとおは海のうらうら  
 ありわりのとこらもは  
 火をききこはや風のうらうら

連所師者慶  


春あけのこころしてのうらまの記  
 かがみあめくはむ  
 夏さあめくはむ  
 りく記をたまたまきらけ  
 敬信の梅の花の坊を部と  
 こはとともあしあし  
 おの  
 まとあ人けらか部と  
 町とあめくはむ

花園殿  


花いんが

残春  
 花分ちささりあつらうら木とあ  
 のうら日ともあ風り吹  
 實満

二條家為親卿  
みりく

これ水の尾乃四つの子まゝ  
このくみは尋  
み乃くし開のなまらつていふ  
君のつらむじらわらふまゝ  
これ元慶の山子あつて  
君のつかまつるまゝ  
まはりのまゝ  
これ仁和寺のまゝ  
おぼろのまゝ

首  
紙  
の  
左  
方

# 遠樹

遠方竹林の梢もまはなは  
市立うらみふ代のけをゆめて宣慶

飛鳥井雅幸卿  
あひ

高砂ははなはつて  
志のこころをいん

連哥師里村  
あひ

# 野遊

あつこらまゝ中  
神やあはれか  
昌隆



樋口殿

新古今

月形極

秋もあはれかよひのちのち  
月のかげにみえたるは  
信

西洞院殿

思紅葉

深えらわぬあきと  
松木入るお母の  
時良